

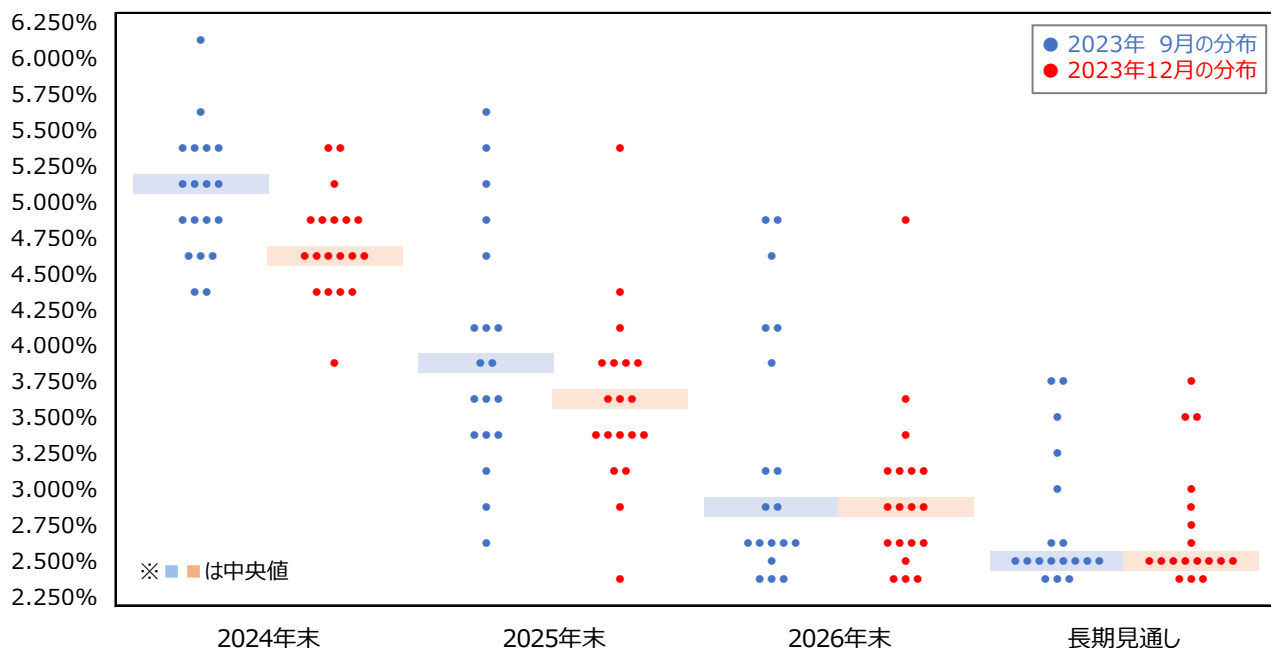
愛称 **パワード・インカム****3会合連続で政策金利の据え置きを決定したFOMC****下方修正された2024年と2025年の政策金利見通し**

米連邦準備制度理事会(FRB)は、12月12日～13日に開催した米連邦公開市場委員会(FOMC)で主要政策金利である米フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を市場の予想通り5.25%～5.50%に据え置くことを決定しました。政策金利の据え置きは、前々回9月19日～20日と前回10月31日～11月1日に続き3会合連続となります。

FRBは、FOMC終了後に公表した声明文で「インフレ率は依然として高止まりしている。われわれはこれまでの金融引き締めの一時的な効果や、経済と物価に時間差で与える影響を考慮する。もしも、われわれの目標の達成を妨げる可能性のあるリスクが生じた場合、金融政策のスタンスを適切に調整する準備がある」と引き続き指摘しつつも、「インフレ率は、この1年で緩和した」としています。

また、同時に公表された政策金利見通し(ドットチャート)も、2024年末(中央値)が前回9月会合時点の5.125%から4.625%(0.25%換算で3回の利下げ)に、2025年末も3.875%から3.625%(0.25%換算で4回の利下げ)に、それぞれ引き下げられ、過去約2年にわたり実施されてきた歴史的な金融引き締めが終了したことを示唆しています。

パウエルFRB議長も、終了後の記者会見において「物価上昇圧力が再び台頭しないようにするために、追加利上げの選択肢を排除するつもりはない」としつつも、「利下げは視野に入り始めており、実社会で話題になっているのは明白だ。今回の会合でも議論した。後手に回らないよう留意している。待ちすぎることで利下げが遅くなるリスクについて認識している」と述べています。

**FOMC参加者の政策金利見通し**

出所：FRB『FOMC Projections materials』より作成

**お申込みの際は必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をよくお読みください。**

愛称 **パワード・インカム**

## 今後の見通し①

## 日増しに減少した当局者のタカ派発言と利上げ効果が浸透する米国経済①

米国の長期金利は、12月22日の11月米個人消費支出(PCE)デフレーターや1月3日の12月12日～13日開催分のFOMC議事録、1月5日の12月米雇用統計、1月11日の12月米消費者物価指数(CPI)、1月17日の12月米小売売上高、米地区連銀経済報告(ベージュブック)、要人発言、中東情勢などを見極めつつ、引き続き、不安定な相場展開が予想されます。

米国では物価の高い伸びが続いていますが、米アトランタ地区連銀のポスティック総裁は、11月3日に「景気がこのまま推移すれば、インフレ率を目標とする2%に引き下げるために現在の金融政策は十分に制約的だと考えられる。雇用統計は苦痛を最小限に抑えつつ、インフレ率を目標の2%に回帰させる取り組みに寄与する形で、われわれの政策が経済に波及し始めていることを物語っている」と述べています。

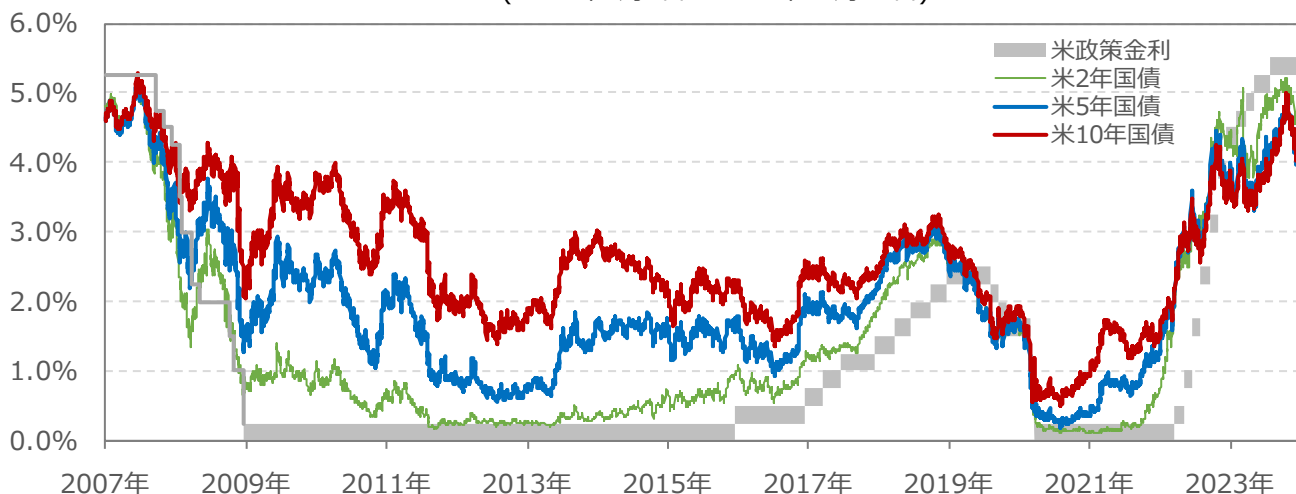
米シカゴ地区連銀のグールズビー総裁も、11月7日に「向こう2～3ヵ月でインフレ率は急速に低下する可能性がある」、11月9日にも「長期金利上昇の影響に注意を払い、利回り上昇によって今後1年で経済が予想以上に減速しないようにする必要がある」、11月14日にも「10月のCPIはかなり良好に見える。まだ道半ばだが、前進は続けている」と述べています。

米リッチモンド地区連銀のバーキン総裁も、11月9日に「これまでの全ての引き締めが最終的に経済に及ぼす影響は今後より厳しくなる見通しで、一定の景気後退を予想している。経済が減速しているのは明白で、われわれは引き締めでやり過ぎと不足の狭間で紙一重の道を歩む必要がある。需要が弱ければ、より多くの措置を講じる必要性は低下する」と述べています。

FRBのクック理事も、11月16日に「低所得世帯は貯蓄をおおむね使い果たしており、短期借入に依存する中小企業は急激な信用収縮に直面している。潜在的なストレスの兆候も出ている。世界の他の中央銀行は急速に政策を引き締めている。他の中央銀行が引き締めを行っている場合、波及効果があるため、各行は措置をやや控えなければならない可能性がある」と述べています。

## 米国の政策金利と債券利回りの推移

(2007年1月2日～2023年12月13日)



出所：Bloombergより作成

※上記は過去の実績を示したものであり将来を示唆あるいは保証するものではありません。

愛称 **パワード・インカム**

## 今後の見通し②

## 日増しに減少した当局者のタカ派発言と利上げ効果が浸透する米国経済②

米コンファレンス・ボード(CB)が11月20日に発表した10月の景気先行指数(2016年=100)も、消費者マインドの悪化や新規受注の減少、株安などを背景に、前月比▲0.8%の103.9と、19ヵ月連続でレベルを切り下げ、2020年5月以来の低水準も記録し、今後のリスク要因としてコロナ禍で積み上がった過剰貯蓄の枯渇や学生ローンの返済再開の影響なども挙げています。

全米不動産協会(NAR)が11月21日に発表した10月の中古住宅販売戸数(季節調整済み、年率換算)も、モーゲージ(住宅抵当)金利の上昇と慢性的な在庫不足による販売価格の高止まりなどを背景に前月比▲4.1%の379万戸と、2010年8月の368万戸以来約13年ぶりの低水準を記録し、住宅市場の状況が厳しさを増していることを示しています。

FRBのウォラー理事も、11月28日に「ここ数週間で分かったことに勇気づけられる。経済を減速させてインフレ率を目標の2%に戻すため、政策金利は良い位置にあるとの確信をますます深めている。インフレ率の鈍化がさらに数ヵ月間、3ヵ月か4ヵ月、5ヵ月か分からないが続き、再燃はしないとの確信が強まれば、政策金利を引き下げ始めることができる」と述べています。

米ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁も、11月28日に「米国のインフレ期待の安定化に関するこのところのニュースに安心感を覚えている。長期的なインフレ期待を示す指標は極めて安定している。インフレ率の低下傾向は心強い。インフレの先行きに対する不確実性が高まっていることは、物価上昇圧力が増大すると予想されていることを示すものではない」と述べています。

FRBが11月29日に公表したベージュブックでも「労働需要は引き続き軟化した。多くの地区で賃金上昇圧力の緩和が報告され、賃金の伸びは、ほとんどの地区で小幅にとどまった。物価は引き続き上昇したものの、総じて緩やかな伸びとなった。多くの企業で貨物輸送費が値下がりし、鉄鋼や木材などの建設資材の価格が安定あるいは低下したとの報告もみられた」と指摘されています。

## 米国の中古住宅販売戸数の推移



出所：全米不動産協会『Existing-Home Sales』より作成  
季節調整済み、年率換算

※上記は過去の実績を示したものであり将来を示唆あるいは保証するものではありません。

愛称 **ワード・インカム**

## 今後の見通し③

## 米国の長期金利はボックス圏での推移に移行する見通し

米クリーブランド地区連銀のマスター総裁も、11月29日に「インフレ率はFRBが目標とする2%をなお上回っているが、経済全体が比較的堅調に推移している中でも、インフレに明らかな進展がみられている。FRBの利上げで金融が引き締め、需要が減速した。金融政策がどの程度制約的で、これまでの引き締めがどの程度経済に浸透しているのかはまだ分からない」と述べています。

経済協力開発機構(OECD)が11月29日に公表した経済見通しも、米国経済について「これまでの資産価格の上昇と家計貯蓄の過剰蓄積の効果は薄れつつある。需要が減少するにつれて雇用の伸びはさらに鈍化し、失業率は徐々に上昇するだろう。景気減速によりコアインフレは緩和し、供給状況がさらに改善することで、インフレ率は低下するだろう」と分析しています。

米供給管理協会(ISM)が12月1日に発表した11月の製造業景気指数も、紙製品や印刷・同関連業務、電気機器・家電製品・部品、コンピュータ・電子製品、被服・皮革・同関連製品、繊維製品、機械、一次金属など14業種での業況の悪化を背景に10月と変わらずの46.7%に留まり、拡大・縮小の分かれ目となる50%も13ヵ月連続で下回っています。

米ミシガン大学が12月8日に公表した12月の消費者調査(速報値、調査対象約300世帯、調査期間11月19日～12月6日)でも、1年先のインフレ期待が11月の前年比+4.5%から2021年3月以来の低水準となる前年比+3.1%まで伸び率を鈍化させ、2001年10月以来約22年ぶりの低下幅も記録し、物価上昇圧力の緩和を示唆しています。

実体経済の状況や物価の先行き、米国債の予想変動率を示すMOVE指数(債券版VIX指数(恐怖指数))の動向などを引き続き注視する必要がありますが、上記にみられるような環境の中、米国の政策金利もターミナルレート(最終到達点)に達したと考えられ、米国の長期金利も振れを伴いつつボックス圏での推移に移行するものと予想されます。

※パークレイズ証券からの資料をもとに当社が作成

# ファンドの主なリスクと留意点



くわしくは、投資信託説明書（交付目論見書）にて必ずご確認ください。

## 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属いたします。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

- ファンドの主なリスクは以下のとおりです。 ※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

レバレッジリスク	当ファンドは投資信託証券を通じて、米国の4種類の債券(米国の国債、ジニーメイ債、投資適格社債、ハイイールド社債)に対し、各債券へのレバレッジの上限を250%、全体のレバレッジの上限を500%とし、分散投資を行います。最大で5倍のレバレッジを活用するため、債券市場が下落した場合には、レバレッジを利用しない場合に比べて、多額の損失が発生する場合があります。この場合、債券の値動き以上に基準価額が大きく変動します。
価格変動リスク	公社債の価格は、国内外の政治・経済情勢、金融政策等の影響を受けて変動します。一般に、金利が上昇すると、公社債の価格は下落します。組入れている公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	公社債の価格は、発行体の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行体の倒産や債務不履行等の場合は、公社債の価値がなくなることあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。なお、当ファンドが投資信託証券を通じて組入れるハイイールド債券は、一般に投資適格の債券に比べ、発行体の業績等の悪化や景気動向等による価格変動が大きく、発行体の倒産や債務不履行等が生じるリスクが高いと考えられます。また、当ファンドが投資信託証券を通じて行う担保付スワップ取引は、取引の相手方の信用リスク等の影響を受けます。当該取引の相手方の倒産や契約不履行等により当初契約通りの取引が実行されない場合には、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。
流動性リスク	国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売買できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。当ファンドは投資信託証券を通じて、担保付スワップ取引を活用します。市場環境の急変やパワード・インカム戦略のパフォーマンス算出がなされない等の理由により、当ファンドが投資信託証券を通じて行う担保付スワップ取引が当該戦略のパフォーマンスと連動することが困難となった場合には、当ファンドの基準価額が下落する場合があります。なお、当ファンドが投資信託証券を通じて組入れるハイイールド債券は、一般に投資適格の債券に比べ、市場規模や取引量が小さく、流動性が低いと考えられます。
為替変動リスク	外貨建資産の価格は、当該外貨と日本円との間の為替レートの変動の影響を受けて変動します。為替レートは、各国の政治・経済情勢、外国為替市場の需給、金利変動その他の要因により、短期間に大幅に変動することがあります。当該外貨の為替レートが、円高になった場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。
期限前償還リスク (プリペイメント・リスク)	ジニーメイ債の原資産となっている住宅ローンは、一般的に金利が低下すると借換えによる返済が増え、逆に金利が上昇すると借換えによる返済が減少する傾向があります。(期限前返済は金利変動の他にも様々な要因の影響を受けます。) この場合、ジニーメイ債の期限前償還の増減にともなう、金利感応度の変化によって、ジニーメイ債の価格も影響を受けます。

## その他の留意点

- クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。
- 大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、ファンドの基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込の受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。



くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)にて必ずご確認ください。

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の翌々営業日の基準価額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込不可日	<申込日もしくは申込日の翌営業日以下の日に該当する場合> ・ニューヨーク、ロンドンの銀行の休業日 ・米国債決済不可日
信託期間	2028年3月8日まで(設定日 2021年2月26日) ※委託会社は、信託約款の規定に基づき、信託期間を延長することができます。
決算日	毎月分配型 原則、毎月8日(休業日の場合は翌営業日) 資産成長型 原則、3月8日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎月分配型 毎決算時(年12回)、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 資産成長型 毎決算時(年1回)、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動ついで投資コースがあります。販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。 ※分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度[NISA(ニーサ)]および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA(ニーサ)」の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 ※上記は2023年12月末までの制度となります。 2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度[NISA(ニーサ)]の適用対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

その他の項目につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)にて必ずご確認ください。

## 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎月分配型 ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率1.518%(税抜1.38%)</b> を乗じた額です。運用管理費用(信託報酬)は、毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。 資産成長型 ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率1.518%(税抜1.38%)</b> を乗じた額です。運用管理費用(信託報酬)は、毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。
投資対象とする投資信託証券の信託報酬等	<b>年率0.231%(税抜0.21%)</b> ※上記の信託報酬等は、本書類作成日現在のものであり、今後変更となる場合があります。また、上記のほか、投資信託証券の設立・開示に関する費用等(監査費用、弁護士費用等)、売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等がかかります。
実質的な運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対して <b>概ね1.749%(税込・年率)程度</b> となります。 ※ファンドの運用管理費用(信託報酬)年率1.518%(税抜1.38%)に投資対象とする投資信託証券の信託報酬等(年率0.231%)を加算しております。投資信託証券の組入状況等によって、ファンドにおける、実質的に負担する運用管理費用(信託報酬)は変動します。
その他の費用・手数料	以下の費用・手数料等が、ファンドから支払われます。 ・監査費用 ・ 売買委託手数料 ・ 外国における資産の保管等に要する費用 ・ 信託財産に関する租税 等 ※上記の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

■当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社	SOMPOアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者(登録番号: 関東財務局長(金商)第351号)であり、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。 信託財産の運用指図等を行います。 電話: 0120-69-5432(受付時間: 営業日の午前9時から午後5時) ホームページ・アドレス: <a href="https://www.sompo-am.co.jp/">https://www.sompo-am.co.jp/</a>
受託会社	野村信託銀行株式会社 信託財産の保管等を行います。
販売会社	受益権の募集の取扱、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。

当ファンドは最大で5倍のレバレッジを活用するため、市場環境によっては基準価額が大幅に下落する可能性があり、一般的な債券ファンドと比べリスクが高い商品です。ご投資の際には慎重にご判断ください。

# 収益分配金に関する留意事項

● 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

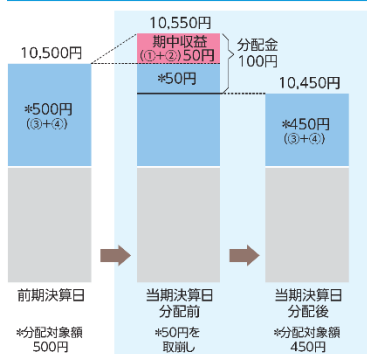


● 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が大きかった場合も同様です。

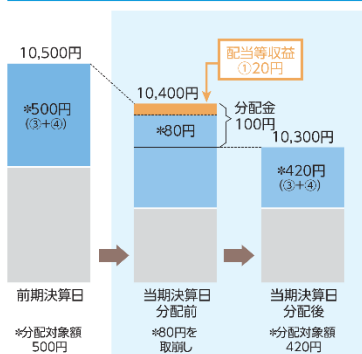
● 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

## 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



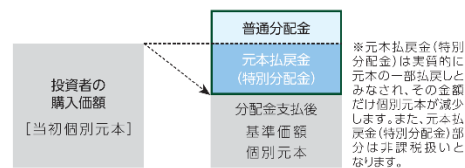
### 前期決算日から基準価額が下落した場合



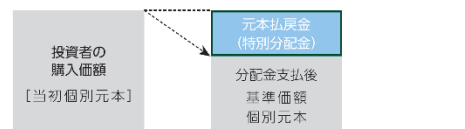
(注) 分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額は、以下①～④です。

①経費控除後の配当等収益、②経費控除後の評価益を含む売買益、③分配準備積立金、④収益調整金  
 ※上記はイメージです。実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

## 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



## 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



**普通分配金** 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

**元本払戻金(特別分配金)** 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税は、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

## 債券パワード・インカムファンド(毎月分配型)(愛称 パワード・インカム)

■ 販売会社 (順不同、○は加入協会を表す)

2023年12月14日 現在

販売会社名	区分	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○	
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○				

## 債券パワード・インカムファンド(資産成長型)(愛称 パワード・インカム)

■ 販売会社 (順不同、○は加入協会を表す)

2023年12月14日 現在

販売会社名	区分	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○	
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○				
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○				

### <備考欄の表示について>

- ※1 記載の日付より新規お取扱いを開始します。
- ※2 記載の日付以降の新規お取扱いを行いません。
- ※3 新規のお取扱いを行っていません。

### <ご留意事項>

- ・上記掲載の販売会社は、今後変更となる場合があります。
- ・上記掲載以外の販売会社において、お取扱いを行っている場合があります。
- ・詳細は販売会社または委託会社までお問い合わせください。

当資料はSOMPOアセットマネジメント株式会社(以下、弊社)により作成された販売補助資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なりリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本、分配金の保証はありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。当資料は弊社が信頼できると判断した各種情報に基づいて作成されておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。当資料に記載された意見等は予告なしに変更する場合があります。また、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。投資信託の設定・運用は委託会社が行います。お申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しますので、詳細をご確認の上、お客さま自身でご判断ください。なお、お客さまへの投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。